

contents

森と芸術 —美術と博物館が語る森の秘密—	[2~3]
夏休みキッズミュージアム	[4]
所蔵品によるテーマ展 移動美術館	[5]
館蔵品紹介	[5]
特別寄稿 小野光太郎氏	[6]
江展イベント報告	[6]
アートカード登場!!	[7]
もの知り事典	[8]
お知らせ、貸館情報	[8]
福井県立美術館 秋の展覧会案内	[8]

表紙：ポール・セリュジエ《ブルターニュのアンヌ女公への礼讃》 1922年 ヤマザキマザック美術館（「森と芸術」展より）



森と芸術

—美術と博物が語る森のひみつ—

会期◎2011年

7/29金～8/28日

会場◎福井県立美術館／開館時間◎午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)、毎週金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで) 会期中無休／観覧料◎一般800円、大高生500円、中小生300円 ※30名以上の団体は2割引 ※学生割引は学生証の提示が必要です ※身体障害者手帳等所持者とその介護者1名は半額(ただし障害者手帳等に介護印のある方のみ)／主催◎福井県立美術館／共催◎福井新聞社／協力◎福井県立美術館ボランティアの会／監修◎巖谷國士／企画協力◎アートブランニングレイ



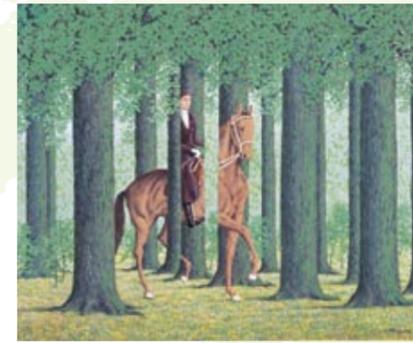
1.



2.



3.



4.



5.

はるかな昔、人間は森に住み、森の恵みを糧に暮らしていました。のちに森を離れて文明を築くようになってからも、人間は森という故郷に「楽園」の思い出を重ね、ノスタルジアを抱きつづけてきたのです。

古今の芸術作品のなかにも、そうした原初の森への郷愁や憧れがあらわれています。森の神話・伝説を描く絵画、情感ゆたかな風景画、メルヘン絵本、植物文様をもつアール・ヌーヴォーのガラス器など、森の魅惑を体現する作品の数々が展示されます。

デュラーの描く楽園の森、クロード・ロランにはじまる各時代の風景画、ガレの花器にみられる図像化された森、セリュジエやドニの描く伝説の森、グリムやアンデルセンの挿絵、マグリットやデルヴォーによるシュルレアリスムの森の幻想と神秘、民俗学的な見地から森の本性に迫った岡本太郎の森、アニメーション『もののけ姫』の背景にひろがる男鹿和雄の描いた日本の森……。

本展は、そうした森にかかわる数多くの作品を通して、私たちのうちにひそむ「森の記憶」をよみがえらそうとするものです。

また、美術作品ばかりではなく、遠く恐竜時代までさかのぼり、福井県出土の化石などの博物標本や、太古の森の想像

図を示し、現代人に受けつがれているはるかな「森の記憶」をも探ります。

美術から博物まで、200点をこえる展示作品を「8つの森」と「福井の森」のコーナーで構成し、その美と喜び、その意味と重要性について考えてゆきます。

森と芸術 7つのみどころ

1 森とは何か

人間にとって、森は単なる木の集まりではありません。私達は森を見て、森の中を歩くときに、なにかしら心休まるもの、懐かしいもの、そして聖なるものを感じます。それは、かつて森で暮らしていた人類の記憶がよみがえり、郷愁や憧れのかたちをとるのだともいえます。

ゴーギャンの描くタヒチの森には、原初の楽園に住むかのようなエヴァ(イヴ)の姿があります。ポーシャンの素朴な楽園図にも、森へのノスタルジアがあらわれています。

2 神話・伝説の森

西洋美術にまずあらわれる森の表現には、アダムとエヴァのくらす楽園のイメージだけでなく、いっそう古いギリシア・ローマの神話や、ケルトやゲルマンの伝説に取材したものが多く見られます。神々や妖精たちの出没する物語の舞台としても、森はしばしば油彩や版画の名作のなかに登場していました。

3 風景としての森

ヨーロッパのいわゆる風景画は、17世紀ごろようやく成立したものです。クロード・ロランはその巨匠のひとりで、はじめて森そのものを絵の主題にしました。18世紀には自然回帰の風潮によって、ゲインズボロなどの風景画家が輩出し、19世紀にいたると、森は風景画に欠かせない主題となります。パルビゾン派のコローなどの描く森には、近代人の郷愁に似た情感が漂っていました。

4 アール・ヌーヴォーと象徴の森

19世紀後半には、自然界を新たな目で見える芸術運動が生まれます。アール・ヌーヴォーのガラス工芸の代表者エミール・ガレは、「わが根源は森の奥にあり」と述べ、木々や花々をはじめとする森の生物をモチーフの中心にしました。絵画の領域でも、植物界をもはや風景ではなく、象徴的な図像として描くサンボリスムの運動がおこります。ゴーギャンとともにブルターニュ地方の「愛の森」へ通ったセリュジエは、中世ケルトの森の伝説を回顧するかのよう、郷愁をたたえた寓意画を構成しました。

5 森のさまざまなイメージ

森は19世紀までの西洋美術史において、以上のように重要なテーマやモチーフとなってきただけでなく、芸術と文化のさまざまな領域にあらわれ、各時代に

不可欠のイメージをのこしてきました。森をかたどる小宇宙のような空間、森から生まれたオブジェや玩具、森の博物誌、森を舞台にしたメルヘン絵本など、森にまつわるさまざまな作品や資料の数々も、この展覧会の大きな部分を占めています。

6 森の神秘と幻想

20世紀、第一次世界大戦後になると、風景画の退潮とともに、森を描く美術作品は少なくなりましたが、ただシュルレアリスムの芸術家たちだけは、森を現代にふさわしい神秘や幻想のありかと思なし、しばしば好みのテーマとしました。マックス・エルンストをはじめ、マグリットやデルヴォーのような巨匠たちの作品には、それぞれ独自の森の表現が見られます。さらにシュルレアリスムの影響も受け、民俗学的な見地から森の本性に迫ろうとした日本の画家に、岡本太郎がいたことも忘れてはならないでしょう。

7 福井の森

このコーナーでは、福井県の勝山市で発掘された恐竜時代の植物の化石と、その時代に生きたフクイサウルス・テトリエンシスやフクイラプトル・キタダニエンシスなどの恐竜の全身復元骨格、等々を展示します。

これらの資料によって、私たち人類のあらわれるはるか以前の、大森林に覆われたふしぎな世界をご想像ください。

■ 関連企画

【監修者によるギャラリートーク】
講師：巖谷國士(監修者、明治学院大学名誉教授、美術批評家、仏文学者)

日時：7月29日(金) 14：00～
会場：当館展示室 ※観覧券が必要です

【講演会】
「森と芸術 —失われた楽園をもとめて—」

講師：巖谷國士
日時：7月30日(土) 14：00～
会場：当館講堂 ※聴講は無料です

【学芸員によるギャラリートーク】
日時：8月14日(日) 14：00～、
8月21日(日) 14：00～
会場：当館展示室 ※観覧券が必要です

【「ふくいの子供たちが描く1000枚のふくいの森」コーナーの設置】

ふくいの子供たちに1000枚をこえる「行ってみたい森」や「住んでみたい森」、「未来の森」を描いてもらいました

会場：当館展示室 ※観覧は無料です

【「森と芸術のワークシート」の配布】

入場した小中学生に、森や自然、芸術について考えてもらうワークシートを配布します(希望者) 配布場所：当館展示室 ※入場には観覧券が必要です

〈展示構成〉

- 第1章 楽園としての森
 - 第2章 神話と伝説の森
 - 第3章 風景画のなかの森
 - 第4章 アール・ヌーヴォーと象徴の森
 - 第5章 庭園と「聖なる森」
 - 第6章 メルヘンと絵本の森
 - 第7章 シュルレアリスムの森
 - 第8章 日本列島の森(岡本太郎の森、ジブリの森) 福井・恐竜の森
- 図録『森と芸術』(巖谷國士監修・著、平凡社刊)は美術館内で販売しております



6.



7.



8.



9.



10.

11.

- 1. アルブレヒト・デュラー《人間の墮落》(『小受難伝』より) 1510年頃 町田市立国際版画美術館／2. アンドレ・ポーシャン《楽園》 1954年 ハーモ美術館／3. カミーユ・コロ(サン・ニコラ・レーザスの川辺) 1872年 山寺 後藤美術館／4. ルネ・マグリット《白紙委任状》 1966年 宮崎県立美術館 ©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2011／5. エミール・ガレ《キノコ文花器》 1900年頃 個人蔵／6. 川田喜久治《地獄の入り口 ボマルツォ、ヴィテルボ、イタリア》(『聖なる森-Parco dei Mostri』より) 1969年 作家蔵／7. ギュスターヴ・ドレ《赤ずきんちゃん》(『ペロの昔話集』より) 1864年 明治学院大学図書館 絵本とメルヘン・コレクション／8. アンリー・ファンタン・ラトゥール《二人のオンディーヌ》 1903年 黒壁美術館／9. 岡本太郎《森の家族》 1983年 川崎市岡本太郎美術館／10. 《フクイラプトル・キタダニエンシス1/2全身復元骨格》 白亜紀前期(約1億2000万年前) 福井県立恐竜博物館／11. 《ソテツ類の一種》 白亜紀前期(約1億2000万年前) 福井県立恐竜博物館



ふくいキッズミュージアム

～ぐんぐん伸ばそうアートの芽～

【協力】
福井県立美術館
ボランティアの会

ふくいキッズミュージアムとは、

子どもたちが芸術をとおして「みる、つくる、あそぶ、おもう」を体験するなかで、一人ひとりが持っているアートの芽を伸ばすことを目的としたプロジェクトです。

今回は「森と芸術」展を鑑賞し、森にかかわる多くの作品から自然界へとイメージをひろげ、自分たちの作品を創作します。

イベントメニュー

◎各イベントには「森と芸術」展の鑑賞時間が含まれます。

森に還る素材を使おう

ダンボールは森から生まれて森に還る、人にも環境にもやさしい今注目のエコ素材。しかも、とっても丈夫で軽い！自然いっぱいの作品を見た後は、自然素材のダンボールを使っておもてなしセットをつくってみよう。

A おもてなしセットをつくろう **つくる**
コース ちゃんと座れる！本格おもてなしセット☆ **要申込**

【講師】内藤 秀信氏（ごじら工房主宰）
【日時】7月31日(日) ◎第1回／9：30～11：30
◎第2回／13：00～15：00
【定員】各回親子15組 【参加費】1,000円
【会場】県立美術館

古代の森を感じてみよう

森の絵画や恐竜の化石をみたあとは、針金細工で恐竜をつくろう。細い針金からだんだん恐竜が生まみ出されていく、このワクワク感！イメージどおりにできるかな？

B ワイヤーアートで恐竜をつくろう **つくる**
コース **要申込**

【講師】中島 郁子氏（ワイヤーワークデザイナー）
【日時】8月7日(日) ◎第1回／9：30～12：00
◎第2回／13：00～15：30
【定員】各回親子25組（小学生以上）【参加費】800円
【会場】県立美術館

太陽の光を利用しよう

小さな針穴から太陽の光をとりいれ写真にする針穴カメラ。たくさんの作品を見たあとは、おもしろいオリジナル写真をとろう。カメラづくりから撮影、モノクロ現像、そしてみんなの作品鑑賞会をするよ。どんな写真がとれるかな？現像するまでのお楽しみ☆

C 針穴カメラで写真をとろう！ **つくる・とる**
コース **要申込**

カメラづくりから撮影、モノクロ現像、そしてみんなの作品鑑賞会をするよ。
【講師】古宮 由紀氏（日本針穴写真協会会員）
【日時】8月13日(土) 9：30～14：30
【定員】親子20組（小学生以上）【参加費】500円
【会場】県立美術館 ※昼食は各自ご用意ください。

D ふくいキッズミュージアムINおぼま **つくる・とる**
コース 針穴カメラで写真をとろう！ **要申込**

美術館が小浜に！この機会にぜひ参加してね☆
カメラづくりから撮影、モノクロ現像、そしてみんなの作品鑑賞会をするよ。※鑑賞内容は「移動美術館小浜展1」です。
【講師】古宮 由紀氏（日本針穴写真協会会員）
【日時】8月20日(土) 13：00～16：30
【定員】親子20組（小学生以上）【参加費】500円
【会場】福井県立若狭歴史民俗資料館（小浜市速敷2丁目104）

「森と芸術」展からアイデアをみつけよう

世界中から集まったいろんな時代の作品には「カタチ」や「いろ」のヒントがたくさんかかれている。あなたは何をみつけるかな？ここでみつけたアイデアを夏休みの宿題にぶつけよう！先生が絵を上手に描く「コツ」を教えます。

E 夏休み 絵の宿題応援 **描く**
コース ※何を描くかはおうちで考えてきてね **要申込**

作家や学芸員が着色をアドバイス。夏休みの宿題をここで解決！
【講師】塩出 周子氏（日本画家）、県立美術館学芸員
【講師】8月14日(日) ◎第1回／9：30～12：00
◎第2回／13：00～15：30
【定員】各回15名（小学生以上）【参加費】200円
【持ち物】夏休みの絵の宿題とそれに必要な画材（画用紙、絵の具セットなど）
【会場】県立美術館

【申込方法】
「ふくいキッズミュージアム係」まで電子メール、FAXまたは電話で下記事項をお知らせの上、お申込ください。

1) 希望コース名および希望の日付と時間 2) 参加を希望する者全員の氏名および年齢 3) 住所 4) 電話番号 5) FAX番号または電子メールアドレス

※最終締め切りは各イベントの3日前までです（必着）。団体でのお申込みも可能です。
※受付は先着順、定員になり次第締め切らせていただきます。
※参加費は当日集めます。
※申込状況はHPに掲載しておりますのでご確認ください。更新が遅れる場合がありますので、正確な情報については直接お問い合わせ下さい。
【申込先】
○Mail：finearts@pref.fukui.lg.jp
（題名に「ふくいキッズミュージアム申込」とご明記ください）
○FAX：0776-25-0459
○TEL：0776-25-0452
【問い合わせ先】
福井県立美術館「ふくいキッズミュージアム」係 TEL：0776-25-0452

所蔵品によるテーマ展 3・4

※7/1～9/30 クールライフプロジェクトのため観覧料無料

◎会場：福井県立美術館 常設展示室 ◎開館時間：午前9時～午後5時（入場は午後4時30分まで）

7/29(金)～8/28(日) ※期間中無休 「自然との対話」

企画展「森と芸術展」にあわせ、自然の情景を描いた作品を特集します。日本人が古来より好んだ花鳥風月の世界や、折々の季節を楽しむ人々の姿を情緒豊かに描いた作品の数々をご覧ください。



木村武山「花鳥図(日盛り)」



米谷清和「夏」



岩佐又兵衛勝以「鷹居士図」

9/9(金)～10/16(日) ※休館日：9/26(月)・10/3(月) 「古美術への誘い」

古美術の絵画作品には想像力を刺激する物語や、武家に好まれた画題である鷹、屋敷を豪華に飾る金壁障壁画などが盛んに描かれており、当時の注文主の多様な嗜好や作品の用途を推察することができます。今回はそれらの絵画とともに、室町時代後期に朝倉氏に仕えた越前曾我派や、江戸初期に活躍した岩佐又兵衛勝以など、福井ゆかりの絵師たちの作品も併せてご紹介します。



作者不詳「酒伝童子図屏風」(左隻)



岩佐又兵衛勝以「鷹居士図」



鎌形尊斎「菟道蛸図」

移動美術館 小浜展1・敦賀展

※クールライフプロジェクトのため観覧料無料

小浜展1 8/20(土)～8/31(水) ※期間中無休 「新収蔵品展」日本美術院の大家たち」 若狭歴史民俗資料館

敦賀展 9/3(土)～9/17(土) ※9/5(月)、12(月)

「新収蔵品展」 「福井出身の日本芸術院会員たち」 プラザ万象

昨年度に当館が新たに収蔵した作品を中心にご紹介します。



土田ヒロミ パーティー「東京」



鈴木千久馬「からす瓜のある静物」

福井県立美術館 館蔵品紹介

山田介堂『倣米海岳微雨図』 絹本墨画 1918(大正7)年 204.5×86.1cm

山田介堂(明治3～大正13)は、同じ丸岡出身の南海吉堂(嘉永2～大正12)と共に「福井三堂」と称せられ、明治大正時代に活躍した福井出身の画家として親しまれている。

幼少から南画の手ほどきを受け、後に京都へ出て田能村直入や富岡鉄斎などに師事し、文展には明治44年の第5回展より出品をはじめ、たびたび褒状を受けた。大正10年の日本南画院の結成には中心的役割を果たし、池田桂仙、田近竹邨とともに京都南画壇の三元老として名を馳せた。晩年には芦原にも別宅を構え、京都との間を往復して画作を続けている。介堂が最も得意としたのは、晩年の大正7年頃から

描き始めた青緑山水である。またこのころから自己の画風確立を意識し、落款の署名「介」の字を「不」の字に見える書体に改めている。

この画は、題名からみると北宋の書家で、文人画家でもあった米芾(米海岳ともいう)に倣って描いたものと思われ、水墨画本来の墨の味を生かした大作である。

微雨にけむる山合いから水瀑は溪流となって落ちてくる。山の下からこれを仰ぎ見るようで、構図でいえば高遠図に近く、介堂としては最も充実していた時期の力作である。水墨を主とした詩画一体の境地を学び、それをものにしたことを示す作品である。

本作品は7月29日～8月28日開催の「自然との対話」で展示予定



事実は小説よりも奇なり

小野グループ代表
福井県立美術館運営協議会会長

小野光太郎



二十年位前の話である。東京銀座の数奇屋通りにEというナイトクラブがあった。ママさんは保母が前職で口数の少いおっとりとした四十前後の人だった。グランドピアノが置いてあり、時にラ・パロマ等をリクエストし東京での仕事後のリラックスのひと時を過した。良く流行っている店だった。

「この店に合う絵があるから暫く貸してやるよ」
ママの人柄を知り、応援団の一人として荻須の「モンマルトルの階段」を入りの画商を通じ貸してあげた。一九五五年作の10号の好きな絵の一つだった。客からも大好評だった。

二年余り経ったある日、大阪のU画廊から「荻須の大名品があるので見て欲しい」と電話があった。U画廊は当時福井で年に二〜三回展示会をする業界の老舗で信用ある業者である。数日後福井の自宅に持って来た画を見て思はず

「これは僕の画だ!」と云った。「画家は気に入った同じ場所何枚か画きますから…」との事だったが、一ヶ月前にEから返って来た画を倉庫から取り出して来て「ギョッ」とした。Eから返って来た画は一寸見ただけで構図も色も同じだったのでそのまま倉庫に入れて置いたのだが、比べて見るとEから返って来た方がコピーで、額の裏蓋を開けキャンパスの裏面を見ると真白である。U画廊が持って来た方が明らかに本物で私の物である。紙巾の関係で短絡すると、Eのママは驚いて直ちに所轄の築地警察署に盗難届を出した。一方U画廊はこの画を売りに来た男に些か不審を持ったらしく、買い取り後店員に後を尾らせ車のナンバーを控えていた。犯人はEのパーテンとホステス夫婦で、休日に持ち出し写真版に撮り、入れ替えていた。最近の電子複写技術は凹凸もあり一見本物に見える程進歩している。

それにしても東京のクラブから大阪の数多い画廊、更に数多い顧客の中から福井の小生宅に戻って来た偶然の経緯と確率は「小説よりも奇なり」と感慨に耐えない。この画は大切にしたい。

因に犯人は逮捕され、画はEの盗難保険会社とU画廊間で話がついたと云う。Eのママさんは2年前にガンでこの世を去った。善い人だった。(終)

「イベント報告」
2011年NHK大河ドラマ特別展
「江の姫たちの戦国」

今年のNHK大河ドラマ「江の姫たちの戦国」にあわせた特別巡回展が、4月22日(金)から5月29日(日)まで、当館で開催されました。

総展示作品数は152点。中には2点しか確認されていない江直筆の手紙や、義父・柴田勝家が主君・織田信長より拝領・所持した青井戸茶碗の名品「柴田」、そして今回の展覧会前に新発見された、江の位牌を納めた大型の厨子「崇源院宮殿」など福井初公開品や、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康などおなじみの人物ゆかりの作品が数多く並びました。

まず一般公開に先立つ4月21日(木)には、関係者を招いての開会式・内覧会が開催され、出品者を含む200名以上の招待客が来場しました。さらに会期中の観覧者数は3万人を超え、1万人目と2万人目の来場者には記念品贈呈も行いました。

現在話題のドラマで、かつ地元福井にもゆかりも深く、またこれだけ大規模の歴史展としては本県初ということもあり、県内の方のもとより、全国からの関心も大きく、幅広い年齢層の方が会場を訪れ、熱心に作品を鑑賞していました。



鑑賞教育教材「福井県立美術館アートカード」登場!

県では、子どもたちが「本物」の文化に触れることができる機会を増やし、文化芸術への興味を高めてもらうため、学校と文化施設が協働で、施設の有する“ヒト”“もの”を授業で積極的に活用していく文化教育プログラムを進めています。その一環として、ゲームを通じて子どもたちが楽しみながら美術館の作品を鑑賞し、美術への理解が深まるよう、館藏品60点を用いたアートカードを作成しました。

本年度は、モデル校の図画工作や美術の授業などで実際に活用を進めていくとともに、教育研究所の研修講座などで周知、普及を図り、来年度からは、県内の学校で本格的に活用していきたいと考えています。

アートカード+ポスター

アートカードは直接美術館に来ることが難しい遠隔地の学校であっても、カードゲームを楽しみながら福井県立美術館の館藏品に親しむことができる鑑賞教材です。付録には作品画像を引き伸ばしたB2サイズのポスター3枚があり、黒板に貼って授業で使用することもできます。



子どもたち



6月8日に、福井市木田小学校の5年生の子どもたちを対象に、アートカードの実践を行いました。

【カードの使い方】

少人数のグループに分かれて、対話をしながら鑑賞します。「アートカードガイド」に8つの活用例を紹介していますが、子どもたちの実態に応じて新しい活用方法を開発していただいても構いません。

活用例

◎しりとりゲーム

カードに描かれた内容を言葉にしてしりとりをします。



【使用作品】
45. 米谷清和「エレベーター」
46. 中村徳三郎「鳥と鳥の巣」
22. 木村武山「日盛り」

三上 誠

三上誠は大正8年8月7日、福井出身の両親の次男として大阪府で生まれました。

旧姓は嶋田ですが、12歳の時に福井市の三上家の養子となり、福井中学校(現・藤島高校)を卒業後、京都市立絵画専門学校で日本画を学びました。卒業後は同校の副手になるなど将来を嘱望されましたが、肺結核で一時療養のため帰郷します。約2年間の療養生活を経て、再び京都に出た三上は、戦後の混乱期の昭和23年、山崎隆、星野真吾らと共に、日本画の前衛グループ「パンリアル」を結成、その翌年には大野秀隆(傲嵩)・下村良之介らを加え「パンリアル美術協会」へと発展します。

彼らの運動は、日本画壊滅論が出るなど日本画の存在自体が否定されるような時代の中、斬新かつ創造的なものを追い求めていきました。

三上の絵も、それまでの写生に基づいた穏健な具象表現から、『F市曼荼羅』のように、キュビズムやシュルレアリズムの影響を受けた前衛的な作風へと転換しています。

しかし、三上が32歳の時、肺結核が再発し、4回の手術により、11本もの肋骨を切除しなければならませんでした。三上は大きな衝撃を受け、以後の彼の制作にも強く影響することになります。



灸点万華鏡 1

退院後福井で過ごすようになった三上は、数年後、病体に鞭打ちながら、石膏、紐、ダンボール、木片等を貼り付けた、画面の質感を追求する新しい日本画の制作に挑戦します。

また、常に生と死の狭間で苦悶する中、三上の治療法でもあった東洋医学の鍼灸の経絡経穴図に造形上の着想を得て多くの作品を制作しました。『灸点万華鏡』の連作では、自らの変わりゆく肉体を無限に変幻してやまない‘万華鏡’に投影し、肉体の再生、復活を予感させる三上独自の宇宙観を展開しています。さらに晩年には、作品から以前のような色彩は消え、『鏡』に見られるような静謐さと深い思索に満ちたものへと変わっていきました。

この間、三上は、福井大学非常勤講師や県総合美術作品展の審査員を務めるなど、後進の育成や福井の美術界の発展に大きく貢献しました。こうした功績により、三上は、昭和46年、福井県文化協議会より第1回文化芸術賞を授与されますが、翌年1月16日、肺結核により、52歳の短い生涯を閉じました。

その生涯の中で多彩な変遷を遂げた三上誠の制作活動は、戦後の日本美術史上において高く評価されており、現代においても日本画というものを考える上で大きな指針となり得るものといえるでしょう。

お知らせ

◎7月～11月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますのでご了承ください。

7月11日(月)、25日(月)～28日(木)、8月29日(月)～9月7日(水)、26日(月)、10月3日(月)、17日(月)～21日(金)、31日(月)、11月1日(火)、7日(月)～9日(水)、24日(木)～26日(土)

貸館情報 [7/14～11/29]

7/14～7/18 ● 福井一陽展	9/8～9/11 ● 金沢美術工芸大学同窓会 福井支部展	10/14～10/16 ● 第23回表装展 (福井県表具組合連合会)
7/15～7/18 ● 第57回愛石展	9/8～9/11 ● 第17回絵夢の会絵画展	10/14～10/16 ● 第78回くらしの墨画展
7/15～7/18 ● 第52回九龍社書展	9/15～9/19 ● 第5回スプリングアート展	10/14～10/16 ● 第44回福井県学生書道展
7/20～7/24 ● 第17回玲風会日本画展	9/15～9/19 ● 第47回福井造形展	11/2～11/6 ● 第22回福井県高等学校総合文化祭 美術、書道、写真展 特別支援学校作品展
7/21～7/24 ● 第10回創美の会洋画展	9/15～9/19 ● 第15回グループ「青い扉」パステル画展	11/10～11/13 ● 一日一枚、その日その日 塩出周子
7/22～7/24 ● 第30回記念泉書道展	9/17～9/19 ● ロマンドール教室展 一癒しのお人形さん達	11/10～11/14 ● 伊東牧州喜寿書展
7/29～7/31 ● 第39回福井県朝日写真展	9/23～9/25 ● 第41回若越書道会展	11/15～11/21 ● 「世界遺産とその周辺」写真展
8/3～8/7 ● 第51回ぺんべん会展	9/28～10/2 ● 第10回EOS福井写真展	11/18～11/23 ● 第21回むさび校友会福井支部展
8/10～8/14 ● 福井工大福井高校デザイン コースOB展・在校生作品展	9/29～10/2 ● 第61回福井県勤労者美術展	11/27～11/29 ● フクフク絵手紙&手作り展
8/17～8/21 ● 第14回茂美会展	9/29～10/2 ● 第8回アトリエ羊庵展	
8/24～8/28 ● アートリラとアート楽合同 絵画展	10/7～10/10 ● 第61回福井書法展	
9/8～9/11 ● 第12回カカ・斜展	10/13～10/16 ● 友彩4人展	
9/8～9/11 ● 爽和会日本画展		

福井県立美術館 秋の企画展案内

北川健次

平成23年11月27日(日)～12月25日(日)



駒井哲郎から銅版画を学び池田満寿夫の推挽を得て作家活動を始めた福井出身の北川健次。

本展では、銅版画とオブジェの分野で第一人者的存在である北川健次の魅力について紹介します。

分光器あるいは「兎を持てる少年」
版画集『反対称/鏡/蝶番一夢の通路
Véro-Dodatを通り抜ける試み』より